

## 臨床検体使用に関するお知らせ

『研究課題名 化学療法後の骨髄抑制から回復期にかけて総胆汁酸が上昇する理由の証明』

### 【研究の背景および目的】

抗がん剤による化学療法には骨髄抑制という副作用があり、薬剤投与後に血小板、赤血球、白血球が一過性に減少することが知られています。また、化学療法の暴露がなくとも、感染症や血液疾患などでも一過性に骨髄抑制がみられることが知られています。しかしながら、骨髄抑制期間が長期化すると感染症のリスクが上がることや、骨髄回復までの時間が長引くと治療計画が遅れることとなります。

そこで、東邦大学医療センター大森病院小児科では、一過性の骨髄抑制から回復までの血球の変化から、造血のしくみを解明することを目的として本研究を計画しました。

この研究で得られる成果は、骨髄における造血因子の特定につながります。

### 【研究対象および方法】

この研究は、東邦大学医療センター大森病院倫理委員会の承認を得て実施するものです。

2021年～2024年までに東邦大学医療センター大森病院小児科において、血液疾患及び一過性の血球減少がみられた症例で、「造血のしくみを解明するための研究目的に使用することに関する同意書」にサインを頂いた症例(約20例)を対象とします。

採血後に残った血漿・血清を用いて胆汁酸解析を測定し、診療録(カルテ)から抽出した血液検査の変化とともに解析することにより、胆汁酸の造血に影響を与える因子を調査します。

今回の研究で得られた成果を、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告することがありますが、個人を特定できるような情報が外部に漏れることは一切ありません。

本研究に関してご質問のある方、診療情報や病理解剖結果を研究に利用することを承諾されない方は、下記までご連絡下さい。

### 【連絡先および担当者】

東邦大学医療センター大森病院

小児科

職位・氏名 院内講師 羽賀 洋一

電話 03-3762-4151 内線 6655